

基礎ハンドブック

コンテンツの繰り返しが信頼に変わる仕組み

いちばん最初に読む一冊

フォーマットの 基礎

一生懸命やっているのに結果が出ない、本当の理由

フック船長

もっと詳しい情報は

© @captainhooooook

FORMAT BASICS ・ 第1版

うまくいかない理由が実力だという場合は、
思っているほど多くありませんでした。

それよりも、たった一つが
抜けていることが多かったんです。

目次

プロローグ **問題は「一生懸命さ」ではありませんでした**

1章 **フォーマット? それって一体何ですか**

2章 **これはどうして そんなに大切なんでしょう**

3章 **じゃあ毎日同じものを 上げろということですか**

4章 **では私は 何から始めればいいでしょう**

エピローグ **フォーマットは 生まれつきではありません**

—— プロローグ

問題は「一生懸命さ」 ではありませんでした

まずは正直な話から始めさせてください。

00

今このページを開いている方は、たぶんもう十分すぎるほど頑張っていると思います。夜遅くまで動画を作って、テロップの色ひとつにまで気を配って、うまくいっている人の動画も何本もチェックして。それなのに再生回数はいつも同じところで止まったままで、フォロワーも増えそうで増えない日が続きます。ときには「私、今なにをやっているんだろう」という気持ちにまでなりますよね。

そんなとき、私たちはたいていこう考えます。「まだ実力が足りないのかな。編集をもっと勉強しなきゃ」。でも、長いあいだそばで見てきた私の実感では、うまくいかない理由が実力である場合は、思っているほど多くありませんでした。頑張りが足りないわけでもありません。それよりも、たった一つが抜けているケースがよく目につきました。それが今日お話しする「フォーマット」です。

フォーマットという言葉、どこかで聞いたことはあるけれど、正確に何なのかはよくわからない。そうですよね。大丈夫です。この本は、まさにそういう方のために作りました。マーケティング用語やむずかしい理論は一つも使いません。私たちが毎日目にして、実際に経験している話だけで、となりに座って少しずつ説明するようにお伝えしていきます。

読み終わるころには、少なくとも一つは確実に変わっているはずです。「ああ、だからうまくいかなかったのか」と、今まで見えていなかったものが見えてくる感覚です。それ一つ持ち帰れるだけでも、今日かけた時間は決して無駄になりません。それでは、気楽に始めていきましょう。

今まで見えていなかったものが、
見えてくる感覚。

フォーマット? それって一体何ですか

実体がつかみにくいんですよね。その正体から一つずつ描いていきます。

まずはこの質問から片づけていきましょう。「フォーマット? それって一体何なの?」おそらくこれが今、みなさんの頭の中にある本当の質問だと思います。リールを作るときの編集テクニックのようなものなのか、それともアカウントを伸ばすための何かの戦略なのか。実体がつかみにくいですね。その実体から一つずつ描いていきます。

実はフォーマットという言葉は、もともとテレビの世界から来た言葉です。たとえば「私は一人暮らし(ナ・ホンジャ・サンダ)」というMBCの人気バラエティ番組を思い浮かべてみてください。芸能人の一人暮らしをカメラでのぞく、あの観察バラエティです。この番組は毎週出てくる出演者も違うし、その日見せる日常も毎回違いますよね。でも、番組の進み方はいつも同じです。芸能人が一人で過ごす一日を観察カメラでずっと見せて、そのあとスタジオに集まった人たちがその映像を一緒に見ながら語り合う。この組み立ては、もう何年も変わっていません。こうやって「毎回同じように守られる骨組み」、それをテレビの世界では番組のフォーマットと呼びます。

もう少し詳しくみると、フォーマットとは、その番組の決まった組み立てのことです。出演者もその日の話も毎週入れ替えるけれど、この組み立てだけは触らない。だから私たちはチャンネルを回していてその場面が出てくると、「あ、あの番組だ」とすぐにわかります。組み立てがいつも同じだからです。

こういう番組は、なにも一つだけではありません。毎週違うゲストが出てきて悩みを打ち明ける相談番組も、毎回違う食材で料理をする料理番組も同じです。ゲストも料理も毎回変わるけれど、番組の始め方と進めていく順番はいつも同じ。私たちがその番組を「知っている」と感じるのは、まさにそのいつも同じ組み立てのおかげなんです。

さて、ここから一歩だけ進んでみましょう。みなさんのインスタのアカウントも、実は一つのテレビ番組です。みなさんが上げる動画の一本一本が、その番組の一話にあたります。そう考えると、フォーマットが何なのか、自然に答えが出てきます。フォーマットとは、自分のアカウントという番組が毎回同じように守っている組み立てのことです。

では、さきほどの質問に答えますね。つまりフォーマットは、動画一本をきれいに仕上げる編集テクニックではありません。それよりずっと大きなものです。多くの方がここで混乱してしまって、動画一本をより派手にすることだけに全力を注いでしまいます。でもフォーマットは動画一本の中にあるのではなく、動画と動画のあいだに、アカウント全体に流れているものです。リール一本で使う小手先の技ではなく、自分のアカウントをどう引っ張っていくかを決める大きな絵に近いものなんです。

少し抽象的に感じるかもしれないので、フォーマットをととても簡単なレシピのように書き出してみます。さっきの観察バラエティを例にすると、こんな感じです。

- 1 誰かの一人暮らしの一日を見せる。
- 2 それをスタジオで一緒に見ながら語り合う。
- 3 笑いや、しみじみとした余韻で締めくくる。

たったこの三行が、その番組のフォーマットです。みなさんのアカウントもまったく同じ。どう始めて、何を見せて、どう終わるのか。これを三行で書けたら、それがそのまま自分のフォーマットです。今すぐスラスラ出てこなくても大丈夫。「ああ、こういうことか」という感覚をつかめただけで、今日は十分です。

ただ、ここでもう一つだけ考えてみましょう。テレビ局はどうして、わざわざその組み立てを変えずに守り続けるのでしょうか。毎回新しく変えたほうが新鮮なはずなのに。理由はたった一つです。人がその番組を見るたびに、同じ感じを受け取れるようにするためです。あの観察バラエティをつける人は、毎週あの心地よくて親しみのある空気を期待しながら座るわけですから。行きつけの食堂に、あの知っている味を求めてまた足を運ぶのと同じですね。つまりフォーマットが最終的にやろうとしているのは、見るたびにいつも同じ体験を届けることなんです。

なぜそれが大切かというと、人は知らない感じよりも、知っている感じのほうがずっと居心地がいいからです。いつも同じ体験が少しずつ積み重なると、人はあなたのアカウントを思い浮かべるだけで、頭の中に一つの絵がはっきり描けるようになります。次に何が出てくるか、どんな感じなのかが前もってわかるから、安心してまた戻ってくるんです。

逆に、この組み立てがないとどうなるでしょう。今週はこの流行に乗って作り、来週はまた別の流行に乗って作り、そのときどきで目についたものを上げていると、動画ごとに雰囲気バラバラになります。作る側は間違いなく一生懸命やっているのに、見る側からすると、このアカウントは毎回違う感じでつかみどころがありません。一本一本はそれなりに良く見えても、アカウント全体を眺めると「ここは何をする場所なんだろう?」という疑問符だけが残ります。絵が描けないから、フォローボタンを押す理由が見つからないんです。

ですから、今日の1章では、これ一つだけ持ち帰ってください。

1章のまとめ

フォーマットとは何かむずかしい技術ではなく、自分のアカウントという番組が、見るたびにいつも同じ体験を届けるために毎回守っている組み立てのことです。

これはどうして そんなに大切なのでしょうか

なぜ動画を上手に作るだけでは足りないのか、人の話として解いていきます。

ここで、こんな考えが浮かぶかもしれません。「組み立てを決めたほうがいいのはわかった。でも、そこまで大事なこと?ただ動画をうまく作ればいいんじゃないの?」その気持ちはよくわかります。なぜ動画を上手に作るだけでは足りないのか、今回もむずかしい言葉なしで、人の話として解いていきますね。

人というのは、次に何が来るか予想できると安心して、予想できないとそっと離れていきます。これは私たちが毎日やっていることです。初対面の人の前では、なんとなく慎重になりますよね。その人がどんな人か、まだわからないからです。でも何度か会って慣れてくると、いつのまにか気持ちがほぐれて、冗談も言い合えるようになります。

信頼も同じです。会うたびに言うことが変わる人は、どんなにいい話をしても、なんとなく信じきれませんよね。反対に、いつ会っても変わらない人には、自然と信頼が生まれます。なぜでしょう。変わらないということは、つまり予想できるということで、予想できるから安心できるんです。人の心は、もともとそういうふうにあります。

人がインスタで誰かをフォローするのも、まさにこの気持ちです。このアカウントはこれからも自分の好きなものを見せてくれそうだと、思えるからフォローを押すわけです。フォローって、実は「これからも見続けますね」という小さな約束なんです。でも上がってくるものが毎回バラバラだと、これから何を見せてくれるのか見当がつかないので、わざわざその約束までする気にはなれません。いいねを一つ押して、そのまま通り過ぎてしまうんです。

ここに、もう一つだけ付け加えます。インスタには、私たちを助けてくれる機械が一つあります。よくアルゴリズムと呼ばれるものですが、むずかしく考える必要はまったくありません。この機械を、人の好みをよく知っている配達員だと思ってみてください。この配達員がやることは、たった一つです。自分の動画を好きそうな人を探して、そこへ届けてあげること。でも配達をするには、まずこのアカウントが何をする場所なのかを知らないといけませんよね。料理アカウントなら料理に関心のある人へ、運動アカウントなら運動している人へ届けないといけないので。

ところが毎回違うものが上がってくると、この配達員も迷ってしまいます。「これ、いったい誰に届ければいいんだ?」と。そうしてあちこちの人に少しずつ配ってみて、反応がいまひとつだと、そっと配達をやめてしまいます。私たちがよく「アルゴリズムに乗らなかった」と言うのは、実はこの配達員が、自分のアカウントをどこへ届ければいいのかわからなくて起きていることが多いんです。

だから私は、こう整理しています。フォーマットを決めるというのは、見る人の心もつかみながら、あの配達員の助けも一緒に受け取れる道なんだ、と。

そしてこれは、私たちがよくぶつかる問題も一緒に解いてくれます。毎回「今日は何を上げよう」と、白い画面の前で時間を使い切ってしまうこと。たまたま一本がうまく跳ねたのに、次の一本でまた振り出しに戻ってしまうこと。再生回数の良かった動画を見ても、なぜうまくいったのかわからなくて、もう一度作れないこと。全部がその理由だとは言いきれませんが、組み立てがないときにこういうことがよく起きるのは確かです。始まりと終わりを毎回ゼロから悩まなくていいので準備が少し楽になりますし、何を同じにして何を変えたのかという記録が残るので、うまくいった回を振り返る手がかりも生まれます。

2章のまとめ

人もアルゴリズムも、予想できるほうに安心します。そして組み立ては、毎回ゼロから悩む負担を少しずつ軽くしてくれます。

じゃあ毎日同じものを 上げろということですか

ここに一つ誤解があります。それさえ解ければ、気持ちが軽くなりますよ。

1章で、フォーマットとは「枠は守って、中身は毎回変えるもの」だとお話ししました。すると、そろそろこんな心配が浮かんでくると思います。「枠をずっと守れて、じゃあ毎日似たようなものを上げなきゃいけないの？ 自分も飽きるし、見る人も飽きるんじゃない？」とても自然な心配です。そして、ここに一つ誤解が隠れています。その誤解さえ解ければ、気持ちがずいぶん軽くなりますよ。

おうちのごはんを思い浮かべてみてください。お母さんが作ってくれるごはんは、おかずが毎日違いますよね。今日は卵焼き、明日は焼き魚、あさっては野菜のあえもの。それでも私たちは、それを全部「お母さんのごはん」だと感じます。メニューは毎日変わっても、「お母さんのごはん」という大きな感じはいつも同じだからです。反対に、ある日はお母さんのごはん、ある日は知らないデリバリー、ある日はまた別の家のごはん、というふうに正体が変わり続けると、「お母さんのごはん」という感覚そのものが生まれません。

フォーマットも、これとまったく同じです。大きな枠はいつも見慣れたまま守って、その中の中身だけを毎回新しく変える。だから、退屈な繰り返しではないんです。慣れた枠があるから人は気楽にまた戻ってくるし、中身が毎回違うから飽きない。この二つを両方持っていくのがフォーマットです。

近所の行きつけのカフェを思い浮かべても同じです。店主さんは、行くたびにいつも同じように笑って迎えてくれて、私たちはいつもの席に座ります。でも、その日その日で交わす会話は毎回違いますよね。ある日は天気の話、ある日は最近しんどいことの話。大きな枠は心地よく同じなのに、その中の会話は毎回新しい。だから私たちは飽きるどころか、何度もそのカフェに足を運んでしまうんです。

ここで、もう一つだけお伝えします。その見慣れた枠の中に、毎回欠かさず出てくる自分だけの場面が一つあると、さらにいいです。こうやって毎回同じように繰り返される自分だけの場面、私はそれをシグネチャーと呼んでいます。言葉はちょっとかっこよく見えても、意味はとても単純です。人が「ああ、これといえはあの人だね」とパッと思い浮かべる、その一場面のことです。

私の話

私自身の話を一つさせてください。今はもうやっていませんが、アカウントを始めたばかりのころ、私は毎回の動画をリップクリームを塗りながら始めていました。大した演出ではありません。「さあ、話す準備ができました」という合図を出したかっただけです。私にとっては、ただの癖のような小さな動作でした。

ところが、これを繰り返し続けていたら、面白いことが起きました。みなさんが私を「リップクリームの先生」と呼び始めたんです。オフラインで会う方が、プレゼントにリップクリームを持ってきてくださることもありました。私はリップクリームの話なんて、一度もしたことがないのに、です。

リップクリーム一つで、記憶に刻まれたんです。それがシグネチャーの働きです。

派手だったから刻まれたのではありません。毎回欠かさず、同じように繰り返されたから刻まれたんです。つまりシグネチャーとは、何かすごいものを新しく作るのではなく、すでに自分がやっている小さな動作の一つを、最後まで抜かさずに続けることなんです。

シグネチャーは、必ずしも大がかりな演出である必要ありません。毎回の動画の最後を、いつも同じひとことで締めくくるのも、いつも同じ物を手に持って始めるのも、全部シグネチャーになりえます。大事なのは派手さではなく、毎回欠かさず繰り返されることです。

このシグネチャーが、どうしてそんなに力強いのかというと、人はあなたの数えきれないほどの動画を一本一本は覚えていられなくても、その繰り返される一場面だけは覚えているからです。そしてその場面こそが、さきほどお話しした「見るたびに同じ体験」のど真ん中にあるんです。

ですから、今日覚えておくのはたった一つです。

3章のまとめ

繰り返しは退屈なものではなく、人を安心させ、また戻ってきて
もらうための力です。

では私は 何から始めればいいでしょう

誰でも今すぐ試せる、小さなことを一つだけお渡しします。

ここまで来ると「じゃあ私は何をすればいいの?」と思いますよね。今日はむずかしいところまでは行きません。誰でも今すぐ試せる、とても小さなことを一つだけお渡しします。まずは紙を一枚出して、この質問に答えてみてください。

私は、どんなことなら
毎日やっても飽きないだろう?

この質問がなぜ大事かというと、フォーマットは長く続けられてこそ、ようやく力がついてくるからです。どんなに良さそうに見えるものを選んでも、自分が二か月で疲れ果ててしまったら、何の意味もありません。だから、人がうまくやっていることをやみくもに真似する前に、自分が疲れずに続けられるものは何かを見つけるのが順番なんです。

もし何を選べばいいか見当がつかなければ、こんなヒントで探してみてください。

- 1 人から自分に、やたらとよく聞かれること
- 2 ほかの人は面倒がるのに、自分は時間を忘れて夢中になれること
- 3 自分がもう何年も、自然にやってきたこと

そこに種があることが多いです。すごくて壮大なものを探そうとするほど、かえって遠ざかってしまいます。すでに自分の中にあるものに気づくのが先なんです。

例を一つ挙げてみますね。まわりから「あなたって、冷蔵庫に何かちょっとあれば、パパッと一食作っちゃうよね」とよく言われるとします。ほかの人は大したことないと流してしまうことなのに、自分にとってはそれが楽しくて、時間を忘れられるくらいなら、まさにそこに種があるんです。

そうすると「冷蔵庫にあるもので一食作る」といったことが、自分のフォーマットの出発点になりえます。こうやって遠くの壮大なところで探すのではなく、すでに自分が自然にやっていたところから探すんです。そのほうがずっと気持ちも楽ですし、長く続けられます。

そして、もう一つ。ふだん好きで見ているアカウントを二つか三つ、今日は少し違う目で見てみてください。動画の内容ではなく、そのアカウントが毎回同じようにやっていることは何かを探すんです。

始まり — どうやって始めるか

中盤 — いつも出てくる場面は何か

終わり — どうやって締めくくるか

こうして始まり・中盤・終わりに分けて見てみると、そのアカウントの組み立てが少しずつ見えてきます。その繰り返される組み立てを見つける目がいったん身につくと、そこからはうまくいっているアカウントが全部、教科書のように見えてきますよ。

ここまでが、今日お渡しできる第一歩です。もちろん、ここで終わりではありません。飽きない種を見つけたら、次はそれを人に好かれるフォーマットへ磨いていく作業、反応を見ながら方向を定めていく作業が残っています。怖がることはありません。勘でやるものではなく、順番とやり方がある作業なので、一つずつ踏んでいけば大丈夫です。大事なのは、ここで立ち止まらないことです。

それから一つだけ先にお伝えしておく、今日私たちが見てきたのは、まだコンテンツ一本の構造です。動画一本をどう始めて、どう終わるのか、その組み立てですね。ここまでだけでも、作る作業はずっと楽になります。

でも、人があるアカウントを覚えていて、また戻ってくるのは、動画一本の構造のおかげではありません。その構造がアカウント全体で繰り返されることで生まれる「一貫した体験」のおかげなんです。だからコンテンツのフォーマットは、いずれアカウントのフォーマットへとつながっていかなければなりません。その二つがどうつながるのか。そこからが、本当の話の始まりです。

—— エピローグ

フォーマットは 生まれつきではありません

最後に、どうしてもお伝えしたいことがあります。

人はうまくいっているアカウントを見ると、よくこう考えます。「あの人はもともとセンスがいいんだろうな。私にはああいう才能がない」。私も長いあいだ、そう思っていました。でも、いろいろなアカウントをそばで見ているうちに気づいたのは、うまくいっているところには共通点が一つある、ということでした。組み立てがはっきりしている、ということです。最初から計画していた人もいれば、やっているうちに自然と定まった人もいます。どちらにしても、少なくともこれは生まれつきの才能だけの問題ではない、ということですよね。やり方がある話なら、学んで良くしていけるわけです。

自慢のように聞こえるかもしれませんが、一つだけお伝えしたいことがあります。私はこのフォーマットというものを、かなり深いところまで掘り下げています。コンテンツをどう組み立てるかで止まらず、そのコンテンツを見る人が何に安心して、何に背を向けるのかというところまで、ずっと見つめ続けています。結局は、人を研究する仕事なんだなと思いました。そして私は、フォーマットがみなさんの抱えている問題のかなりの部分を解いてくれると信じています。その部分で、みなさんが安心して聞ける相手になれるよう、これからも努力していきますね。

今日、私たちが一緒に見てきたのは、まさにこれだけです。

1 フォーマットとは、自分のアカウントが見るたびに同じ体験を届けるために守る組み立てである。

2 それがあってはじめて、人も、あの配達員のような機械も、自分を見つけてくれる。

3 毎日同じことをするのではなく、枠は守って中身だけを変えろということ。

この三つを手に持っているだけでも、これからアカウントを見る目は確実に変わります。さあ、今度はみなさんの番です。今日一日だけでもいいので、自分のアカウントを、そして自分の好きなアカウントを「フォーマット」という目で見直してみてください。昨日まで見えていなかったものが、きっと見えてくるはずです。そしてそのとき「あれ? これ、自分もちゃんとやってみたいな」という気持ちが湧いてきたら、この本は自分の役目を果たしたことになります。

そしてもし、フォーマットというものが少しでも気になって、興味が出てきたなら、一つお願いがあります。これから私がアカウントで話すことにも、ときどき耳を傾けてみてください。私はそこで、フォーマットをどう見つけて、どう磨いて、どう長く続けていくのかを、ずっと解説しています。今日身につけたこの目でもう一度私のアカウントを見てもらえれば、これまで何気なく聞き流していた話が、違って聞こえてくるかもしれません。そうやって一つずつ、一緒に積み上げていけばいいんです。

それから、読んでいてフォーマットについて気になることが出てきたら、一人で抱え込まないでください。私が上げているコンテンツにコメントを残して下さっても、DMで質問して下さっても大丈夫です。質問が具体的であるほど、私もより正確にお答えできます。

変化はいつも、
関心から始まります。
今日のこの話が少しでも気になったなら、
あなたはもう、その始まりに立っています。
